

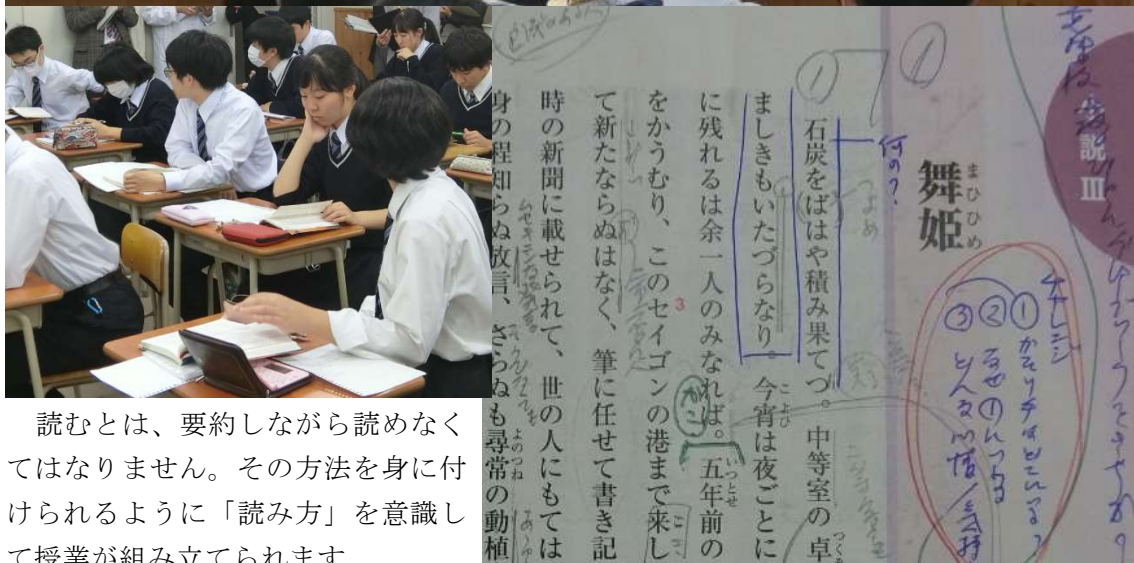
## 国語「舞姫」

### 1 授業のポイント1

#### ○「第7段落」の授業の進め方

----- 段落ごとの授業の進め方 -----

- ①段落の中にある「語句調べ」
- ②段落を読解するために、正確に読み取りが必要な場所のチェック
- ③段落を読解するための3つのポイントの設定



読むとは、要約しながら読めなくてはなりません。その方法を身に付けられるように「読み方」を意識して授業が組み立てられます。

### 舞姫のあらすじ

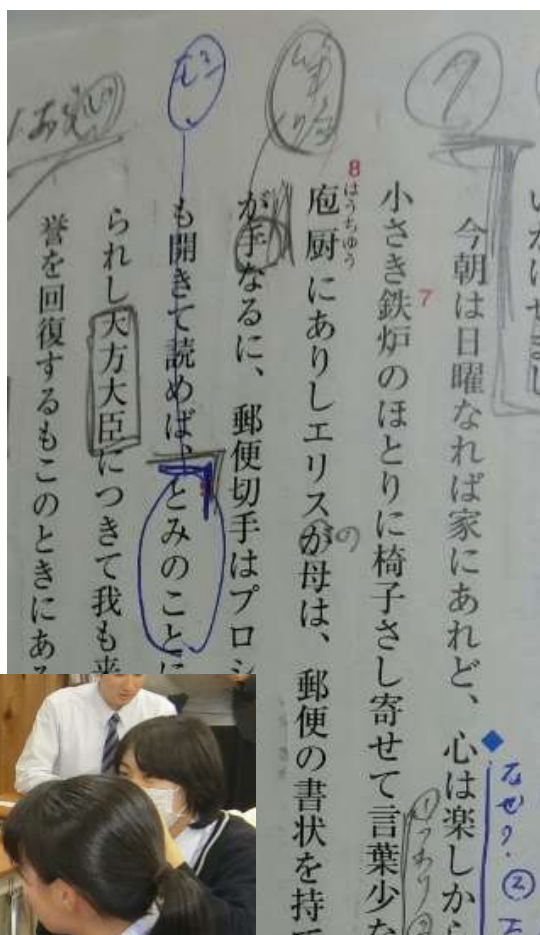
19世紀末。主人公はドイツ帝国に留学した官吏・太田豊太郎。太田は、教会の前で涙に暮れる美少女エリスと出会う。彼女の父の葬儀代を工面してやり、交際を続けるが、仲間の讒言によって豊太郎は免職される。豊太郎はエリスと同棲し、新聞社に職を得る。エリスは豊太郎の子を身籠る。友人の相沢の紹介で大臣のロシア訪問に随行し、信頼を得る。復職のめどと、相沢の忠告で、太田は日本へ帰国することを約束する。しかし、太田の帰国を心配するエリスに、彼は真実を告げられない。その間に、相沢から知らされたエリスは、衝撃の余り発狂してしまう。治癒の望みが無いと告げられたエリスに後ろ髪を引かれつつ、豊太郎は日本に帰国する。

## 2 授業のポイント2

### ①段落の中にある「語句調べ」

#### 第7段落の概要

「大臣がドイツに来ているから会うように」と友人の相沢から手紙が来る。太田が、出かけようとするときにエリスが心配になって声をかける。太田はエリスを安心させ出かける。大臣と会った太田は翻訳の仕事を得た後、相沢と昼食を取る。太田のドイツでの話を聞いた相沢は驚きつつも、これからは大臣の信頼を得てエリスと別れるように助言する。太田は、エリスと別れることを約束する。



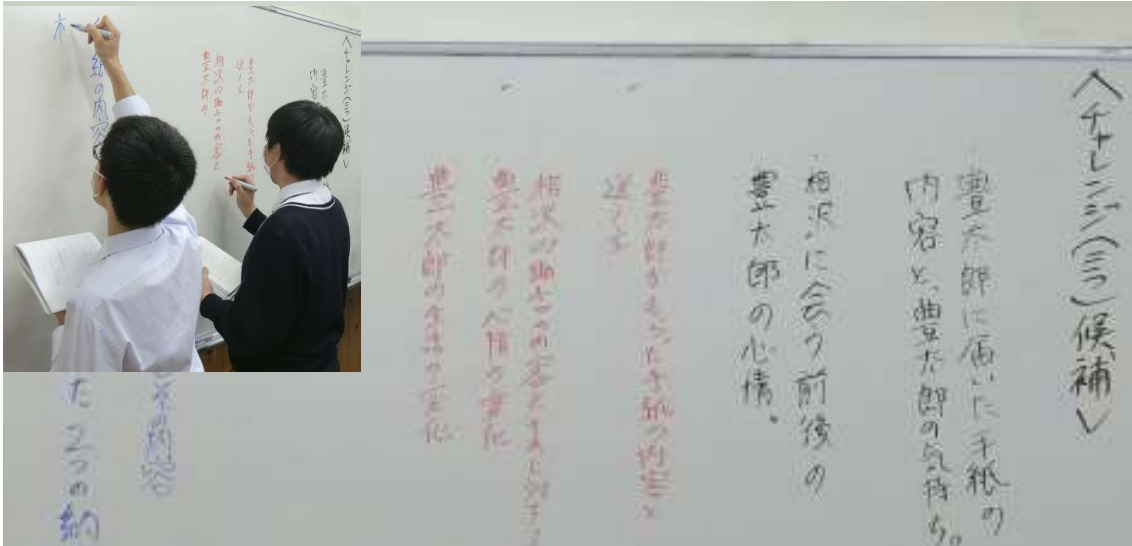
②段落を読解するために、正確に読み取りが必要な箇所のチェック



1 から順番に生徒たちと話し合いながら現代に合わせた表現で具体化が進みました。議論が白熱したのが「6 慣習という一種の惰性」についてです。明治時代と平成時代では、そもそも慣習が大きく違います。作者である「森鷗外」は明治の慣習に基づいて「舞姫」を書いているわけですから、その当時の日本やヨーロッパの時代背景に基づいて読解する必要があるところまで話し合いが深まりました。

4 授業のポイント4

③段落を読解するための3つのポイントの設定



読解するためには、要約が必要です。そのポイントを3つに絞る場面です。初めの頃の段落では3つは教師が提示しました。徐々に生徒たちが考えるようにし生徒の読解力や小説の読み方、理解の仕方を身に付けさせます。